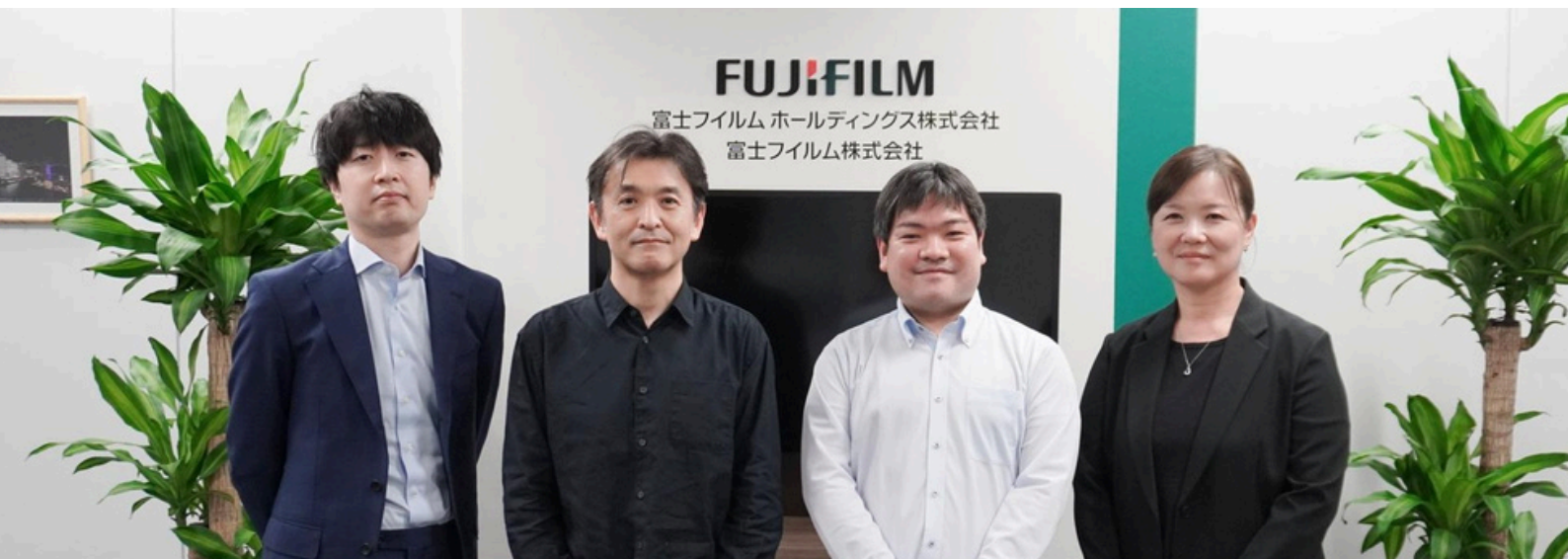


富士フィルムがOpusで約4割のデータを削減、Cloud GovernanceでSharePointのログ管理を自動化

SharePointストレージ約1.4PB・1日2TB増加の中、ストレージの追加購入を抑制



事例のポイント

データ量を約4割削減

Opusでアクセスの少ない文書を自動アーカイブ

SharePointサイトをガバナンスに沿って管理

サイト作成を申請制に。アクセスログの取得も自動化

システム担当者の運用負荷を軽減

エンドユーザーが自分でリストアでき、改善要望にも素早く対応

取材協力

藤城 博之 氏
名村 美奈子 氏
長谷部 隆 氏
萩原 和哉 氏

対象環境

Microsoft 365

導入製品

AvePoint Opus
AvePoint Cloud Governance
(導入時：DocAve Online)

富士フィルムがAvePointを選んだ理由

自動で整理できる

アクセス頻度の低い文書を自動でアーカイブし、
アクセスログも自動で取得・保存できる

現場で完結する

エンドユーザーが自分でリストアでき、
アクセスログも見やすく表示される

改善要望に素早く応える

改善要望に早く対応してもらえる

例：アーカイブの対象を最新版だけにすることで、アーカイブ先のデータ量が1/10に

国・組織を越えた共通基盤であるMicrosoft 365を、 効率よく安全に運用するために

グループウェアをMicrosoft 365に統一、
2023年度に従業員の移行、2024年度に特殊な利用ケースも含めて移行を完了。
SharePointが文書共有の中核になり、
不要なコンテンツの整理やアーカイブの仕組みが必要になった。

課題

SharePointの活用が広がる一方、 データ量と運用負荷が増大

サイトが乱立するリスク

標準のままで誰でもサイトを
作れてしまい
デザインや名称がバラバラになって
生産性が下がる

アクセスログ提供の負荷

各部門からログ提出の依頼が
頻繁に来ていたが、
ログはエンドユーザーには扱いにく
く、管理者が対応する必要があった

データ量が急増

SharePointは約1.4PBで、
1日あたり2TB増加
増加に合わせてストレージを
追加購入する必要があった

選定

自動アーカイブとガバナンス管理を グループ全体で使える仕組みに

2017年ごろに富士ゼロックス（現・富士フイルムビジネスイノベーション）が
DocAve Onlineを採用。2022年、同社だけで使っていたCloud Archivingを
全社展開を見据えて移行計画に組み込み。
2023年8月に後継製品のOpusの提案を受け、2024年2月から本格運用を開始。

解決

データを減らし、管理を自動化

約4割

保存データを削減
アクセスの少ないデータを自動アーカイブ

1/10

アーカイブ先のデータ量を削減
最新版だけをアーカイブ対象にする改善に対応

自動化

アクセスログを自動取得・保存
申請制でサイトを管理

お客様の声



萩原氏

ストレージの追加購入を抑えられたことが大きなメリット

「データ量の増加に対応するためにはストレージの追加購入が必要でしたが、Opus
導入以降、その購入量を抑えられており、大きなメリットを感じています」